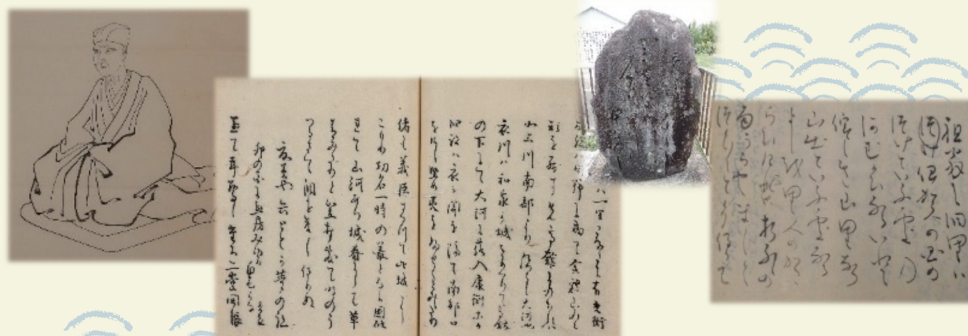


松尾芭蕉をはじめとする歌人・俳人が記した近世の旅日記や句歌集をとりあげ、各地の歌枕・足跡などを辿る旅への想いや交遊を紹介します。  
神ノ郷出身の俳人・永島拾山ゆかりの資料も多数展示します。



10月29日(土)～11月27日(日)

★資料冊子を先着無料配布

(左→右)  
芭蕉翁肖像刷物〔個人蔵〕  
おくの細道〔西尾市岩瀬文庫蔵〕  
芭蕉句碑〔豊川市伊奈村立場茶屋跡〕  
拾山日記〔個人蔵〕

企画展

# 旅に詠む

永島拾山と近世三河の歌人・俳人

すだれ・ヨシズを集めています

国指定天然記念物「清田の大クス」の保全活動に使います。  
博物館まで直接お持ちください。 ※ゴザは不可



竹島水族館  
Aquarium  
☎ 68-2059

館長の  
ひつりん



小林 龍二

先日小学校へ出張授業に行った際、子ども達から「一番管理が大変な水族館の生き物は何ですか」と聞かれたので「一番管理が大変な生き物は飼育員さん達です」と答えたら子どもたちは不思議そうな顔、先生たちも大爆笑していましたが、現在、とても管理が大変なサンゴの飼育展示に力を入れて挑んでいます。きれいで癒される南の海にあるサンゴのお花畑を水槽内に再現するのはかなり難しいことで、魚の飼育・展示の方がはるかに簡単なのです。

サンゴは水質の変化に弱く、そのために水中のアンモニアなどの毒素はゼロにしないといけませんし、そのために毒素を分解してくれる目に見えない微生物を水槽内に定着させ状態を整えないといけません。そのため水中の環境について勉強し、そのための機材をそろえ、そのために資金繰りをしなければならぬとい



写真もきれいですが、実物はもっときれいですよ

う、とにかく「そのために」がやたら多い。そのために他の水族館に聞いたり、趣味で自宅でサンゴを飼っている愛好家のお宅に連絡し訪問して実際の環境を見せてもらったりしました。照明も専用の機材をそろえて現在展示をしています。三河湾の汲み上げ消毒海水ではどうやら水質が違いすぎてうまく飼えないようで、各種ミネラルなどの添加もしています。魚と違って動いたり泳ぎ回ったりしませんが、お客さんはきれいなサンゴを食い入るように見てくれるので、管理が大変でもやりがいのあるやつです。